

ある外科医の独り言

セカンドオピニオン

高 勝義

「セカンドオピニオン」一体何のことでしょう。日本語に訳すと、「もう一人の意見を聞く」ということです。まだよく分かりませんね。つまり、一人の医者意見ではなく、もう一人の医者意見の意見を聞くということなのです。

例えば、貴方が胃癌になったといたしましょう。山下病院で検査をし、胃癌であると告げられ、そして手術をすすめられました。貴方は痛くも痒くもなく、食欲も良好で何の症状もありません。山下で胃癌といわれても納得がゆきません。

更に手術をするなんてのもってのほかです。仮に胃癌としても手術は厭で、何とか薬や手術以外の方法で治療したいと思っています。医師にその旨をお願いしましたが、頑として手術をすすめられ、納得がゆきません。

そこで、もう一人の医者意見を聞きたいと申し出ました。これがセカンドオピニオンなのです。

先日、ある雑誌の編集者が私を訪れ、セカンドオピニオンを勧めることについて意見を聞きに来たのです。私の答えは当然ながら、「大変結構なことですよ。私は患者さんが必要ならいつでもセカンドオピニオンをいたしますよ」と答えた。

一方、今時何故セカンドオピニオンなのか、どうも理解に苦しむことも伝えた。山下病院では、すでに10年前から患者さんに真実を話すことをすすめ、検査や手術そして治療法などについて、十分説明をし、納得をした上で検査や手術や治療を行うようにしてきた。その結果、患者さんからセカンドオピニオンを求められたことはほとんど無いのである。

今時何故セカンドオピニオンなのか？まずは医療者が患者さんに十分説明をしていないのではないかと心配するのである。すでに真実を話すことが求められて十数年が過ぎてしまっている。それにもかかわらず、今もまだ真実を含めた十分な説明が行われていないようである。その結果としてセカンドオピニオンが生まれた。

真実を話そう、理解できるように説明をしよう、セカンドオピニオンを勧めよう。うたい文句は大変結構である。しかし、どうもその内容は伴っていないし、十分実行されていない。いつまでたっても同じこと。理想とうたい文句のみ。真にお寒い日本の医療界を憂いているのは私だけなのだろうか？(山下病院 院長)

在宅活動件数	22件
活動人数	16人
活動時間	135.5時間
ミニデイサービス利用者	53人
移送サービス利用者数	30件

訪問件数	53件
家事	492時間
複合型	277時間
身体	268時間
合計	1037時間

協力会員	44人
利用会員	62人
賛助会員	117人
計	223人

※※ 4月の定例会は ※※
 4月7日(日) 事務所 9時30分～12時30分
 ◆定例会 9時30分～10時30分
 ◆ケア検討会 10時30分～12時30分
 この日の午前のケアはお休みです
 利用者さんよろしくお願ひ致します

介護予防講座自立支援教室・三〇名受講

2/22	2/19
健康予防について	歯と健康について
リズムでリハビリ	ストレッacht体操
講師	講師
鳥居小百合さん	森栄さん
	西川登志江さん
	藤村慶子さん

一宮市から委託を受けて当会が行いました介護予防講座自立支援教室は、この程2日間の日程を終え閉講しました。どの講座も、皆さんとても熱心で「大変よかったです」と感想をお寄せいただきました。●今回は、久しぶりに高齢者と歯の問題を取り上げましたが、改めて高齢者の口腔ケアの重要性を学ぶ機会となりました。又、講師の森栄先生が作られたビデオにより、具体的な訪問歯科治療の様子を見せていただき、訪問歯科治療の必要性を受講の皆さんも痛感されたようでした。●又、リズムでリハビリ講座は、参加者全員文字どおり「リズムでリハビリ」が出来ました。音楽は、間違いなく人の表情を

変え、心に響き、体に反応しました。この企画に共感下さった講師の鳥居先生はじめ、名芸大の学生さん、フルート奏者等のボランティア応援をいただいたり、クラリネットアンサンブル、フルートやオカリナでの演奏、CD音楽やお話を交えての大音楽会になりました。演奏に合わせて参加者が指揮をしたり、唄ったり、リズムをとったり、あつという間の2時間でした。●恒例の西川先生ご指導の工夫された体操は、あらゆる筋肉を動かす、爽快な汗をかくことが出来ました。●また、初めてこの孤死があるにも関わらず、生かされた訪問看護の藤村先生から、名古屋では年間10人のこのことがもう新聞にも載らない時代になつていくこと、怖さをどう思われまますか、と問いかけがありました。地域住民の情報連携が問われています。自立について考える講座でした。

1日(金)	会報「まごころ」発行	(場所・福祉市民会館)
2日(土)	講演会「人間の尊厳とは」	主催・福祉ネットワーク
3日(日)	定例会	
4日(月)	住民参加型在宅サービスセミナー	県社会福祉会館 岩本 大塚
6日(水)	ミニデイ委員会	(場所・保育園)
7日(木)	ミニデイサービス	宮田、大塚、橋
8日(金)	一宮保健センター意見交換会	
11日(月)	コーディネーター会議	平子、鈴木
13日(水)	ミニデイ委員会	
14日(木)	ミニデイサービス	(場所・保育園) 石原、田中
16日(土)	ミニデイサービス	(場所・事務所)
18日(月)	一宮ボランティア	谷、小川
21日(木)	ミニデイサービス	(場所・事務所)
24日(日)	事務所引っ越し	
25日(月)	コーディネーター会議	
28日(木)	ミニデイサービス、ミニ定例会	(場所・事務所) 飯田、牧野
30日(土)	ボランティア会議	(場所・事務所)

ちよつと一口 じゃがいものクリーム煮

材料(2人分)
 じゃがいも 大2個
 玉ねぎ 1/2個
 牛乳 100cc
 塩・コショウ 少々
 バター 少々
 生クリーム 少々
 パセリ 少々

作り方
 ①じゃがいもは、乱切りにして水にさらして水気を切る。玉ねぎは薄切りにする。
 ②鍋に①と牛乳100ccを加えて火にかけて、煮立ったら塩、コショウを加えて蓋をし、柔らかくなるまで煮る。
 ③蓋を取って強火で煮詰め、バターと生クリームを加えて一煮立ちさせパセリをふる。

☆アツアツをどうぞ

ミニデイサービス便り

みんな知恵者
 デイサービスに出掛ける朝、新聞の「傾聴」という見出しに目がとまった。賑やかな事だけが楽しいのではない。今日は、ミニデイに来てくださる皆さんのお話をじっくり耳を傾ける日にしましょうと、決めて家を出た。保育園の広い遊戯室で、このことを皆さんに伝えると、皆さんクスッと笑われる。「話たけりゃいつでもしゃべるでいいですわ。せっかくここに来たんだから楽しいこと皆でするほうがええわ」振り上げたこぶしが降ろす場がなく「じゃ、スタッフが悩んでること、皆さんに聞いてもらうことにします」スタッフYさんが「私、この頃よく転ぶのですがどうすればいいでしょうか。なかなか直らなくて」このスタッフ、本当によく転ぶらしく真剣な質問だった。利用者のFさん「旧暦の一日に足首に白い糸を巻くといいですよ。みんなやってみるよ。私も巻いてるの」「ほー・・・白い糸をね」もう一人の利用者Nさん「あなたね、いいお医者さんに診てもらえばいいのよ。どのお医者さん？」「なるほど、いいお医者さんね・・・ありがとう」皆さん、きちんと教えてくださる。「つぎWさん、あなた聞いてもらいたい悩みは？」聞かれたスタッフWさん「私はね、お金が無いんでね。どうしたらいいのでしょうか」利用者のNさんが、真剣な顔で「ほんなもん、はたらきゃいいがね」瞬間、シーンとなった。なんと素晴らしい答えでしょう。長い間、当たり前のようにして働いて来られた方だからこそ、すーっと口から出てきた言葉。短い言葉でしたが、すごい説得力がありました。「そうです。人は死ぬまで働くのです」みんな大笑い。朝から、すっかり頭がリフレッシュ。「さあーいきましょうか。ドレミファソラシドー」今日もリズムでリハビリが始まった。

平成14年3月のミニデイサービス
 保育園 3月7・14日 事務所 3月16・21日・28